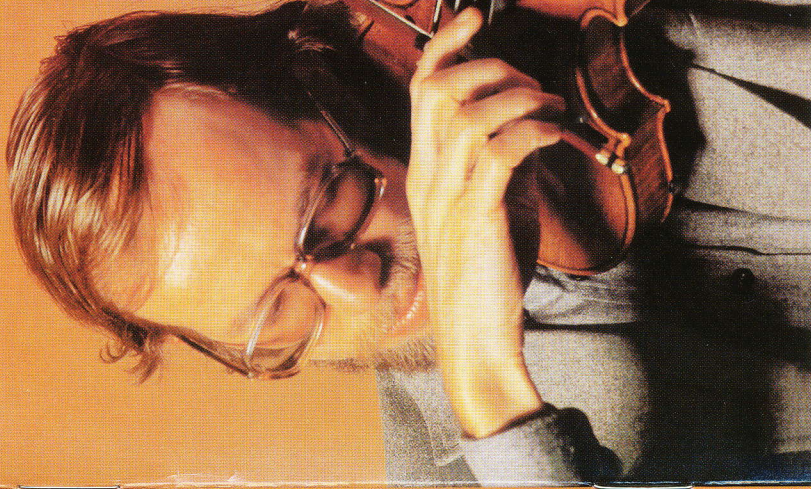


DECCA

BACH
3 Sonate e 3 Partite
per violino solo
BWV 1001-1006
GIDON
KREMER



UCCGD-90489

BACH

The Sonatas and Partitas for Solo Violin
Die Sonaten und Partiten für Solovioline
Les Sonates et Partitas pour violon seul

GIDON KREMER

violin - Violine - violon

Sonata No. 1 in G minor
Sonate Nr. 1 g-moll
Sonate n° 1 en sol mineur
BWV 1001

Partita No. 1 in B minor
Partita Nr. 1 h-moll
Partita n° 1 en si mineur
BWV 1002

Sonata No. 2 in A minor
Sonate Nr. 2 a-moll
Sonate n° 2 en la mineur
BWV 1003

Partita No. 2 in D minor
Partita Nr. 2 d-moll
Partita n° 2 en ré mineur
BWV 1004

Sonata No. 3 in C
Sonate Nr. 3 C-dur
Sonate n° 3 en ut majeur
BWV 1005

Partita No. 3 in E
Partita Nr. 3 E-dur
Partita n° 3 en mi majeur
BWV 1006

ヨハン・セバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ 全曲

BWV1001-1006

Sonatas and Partitas for Violin solo, BWV1001-1006

DISC 1

ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001

Sonata No.1 in G minor, BWV1001

- ① Adagio
- ② Fuga. Allegro
- ③ Siciliana
- ④ Presto

4:23
4:27
3:04
3:10

パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002

Partita No.1 in B minor, BWV1002

- ⑤ Allemanda - Double
- ⑥ Corrente - Double. Presto
- ⑦ Sarabande - Double
- ⑧ Bourrée. Tempo di Borea - Double

7:36
6:25
5:52
6:15

ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003

Sonata No.2 in A minor, BWV1003

- ⑨ Grave
- ⑩ Fuga
- ⑪ Andante
- ⑫ Allegro

4:30
7:07
5:09
4:58

DISC 2

パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004

Partita No.2 in D minor, BWV1004

- ⑬ Allemanda
- ⑭ Corrente
- ⑮ Sarabanda
- ⑯ Giga
- ⑰ Ciaccona

3:53
2:24
3:39
3:51
12:53

ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005

Sonata No.3 in C major, BWV1005

- ⑱ Adagio
- ⑲ Fuga
- ⑳ Largo
- ㉑ Allegro assai

4:05
8:38
2:14
4:37

パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

Partita No.3 in E major, BWV1006

- ㉒ Preludio
- ㉓ Loure
- ㉔ Gavotte en rondeau
- ㉕ Menuet I-II
- ㉖ Bourrée
- ㉗ Gigue

3:18
3:33
2:47
3:51
1:17
1:48

ギドン・クレーメル (ヴァイオリン)

Gidon Kremer, violin

録音:1980年2月5日-6日(BWV1003, 1005)、3月23日-29日(BWV1001, 1002)、6月14日-16日(BWV1004, 1006)

オランダ、ハーレム、ルター教会

J.S.バッハ (1685-1750) は、32歳のときヴァイマルの宮廷オルガン奏者を辞職し、アンハルト・ケーテン公、レオポルト伯爵家の宮廷楽長に就任した。ここで彼は妻マリア・バルバラと死別したけれども、まもなくアンナ・マダレーナ・ヴェルケンという若い歌手と再婚、38歳にしてライプツィヒを去るまでケーテンの宮廷楽団の楽長としての職務を忠実につとめていた。この1717~23年までの時期を、バッハの作曲系列の上で、その前後の時代とバッハの作曲系列と区別して考えている。それは、この6年にわたるケーテン生活のあいだに、バッハのオルガン曲以外の重要な器楽曲のほとんど全部が作曲されているからだった。思いつくままに数えても、ブランダーンブルク協奏曲(6曲)、平均律クラヴィーア曲集(第1巻)、半音階的幻想曲とフーガ、イギリス組曲とフランス組曲、各種の協奏曲、無伴奏チェロ組曲、そして同じく無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集といった傑作が浮んでくるほど、その創作活動はめざましいかぎりだった。

このように、せきとめられていた靈感の泉が俄かにせきを切ってあふれ出し、さまざまの器楽曲が生み出されたのは、ケーテンの領主がカルヴィン派の宗旨を持ち、バッハはこ

れまでのように教会音楽やオルガンを作曲する義務がなくなっ、かわりに、室内楽や器楽曲の作品が求められたからである。上記の作品群は、すべてが傑作、名作の名に恥じない曲ばかりであったが、なかでも、無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集、そしてチェロ組曲集こそは、古今に比類のない不滅の名作として認められている。

無伴奏により、たった一挺の弦楽器の独奏をもって、まるで伴奏つき曲のような、多声的な効果を奏出するように構成する。これはバッハがヴァイオリンの演奏技巧に熟達していたことを物語ると同時に、その作曲技法のみにとらわれない例のひとりだが、単にそのような技法上の卓越さばかりでなく、これらの曲は、非常に純粋な深い美しさを保持していたのである。バッハの時代のヴァイオリンは、いまよりも駒の背が低く、用いる弓も半月形に彎曲して、つるの張りかたも緩慢であり、演奏中、容易につるの張りぐあいを変えられた。したがって、場合によっては一度に3本、4本の弦を同時に鳴らすことも可能だった。しかし、現在では駒も高く、弓のつるを強く張って弾くから、このバッハの無伴奏ヴァイオリン曲のように、3声から4声部の和音を把強することは不可能である。

そこで、演奏に際しては、そうした和弦の効果を感じて印象づけられることが必要となる。演奏者によって、いくぶん音の響きが違ってくるのは当然である。

なお、バッハの「無伴奏ヴァイオリン曲」は全部で6曲だが、その中の3曲がソナタであり、のこる3曲はバルティータとなつてソナタではなく、バロック時代の典型的な教会ソナタ(Sonata da chiesa、コレッリが創始した)の様式で、緩急織急という4楽章制で、第2楽章にみごとなフーガが置かれている。またバルティータ(組曲)は、4ないし6種の舞曲をあつめた形式をとっている。バッハはこれらの曲を、ケーテンのすぐれた奏者ヨゼフ・シユピースのために書いたと考えられているが確かではない。

ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001

4楽章の教会ソナタ。全体にいくぶん暗い感じだが、堂々たる威厳をそなえた曲趣には特別の魅力がある。6曲中에서도、シャコンヌを持つバルティータ第2番と共に演奏されることの多い作品である。

第1楽章 アダージョ ト短調 4分の4拍子 全部で22小節という短さだが、ファンタジックで即興的でもあるゆるゆくりした流れの

ために、非常に豊かで壮麗な感じを与える。最初の4声の和弦の奏法、トリラーから延音記号にうつる表現、こまかい音のうごきなどに、その演奏の特徴は早くもはつきりとしていられる。それだけに難しく、また弾きがいのある楽章といえよう。

第2楽章 フーガ (アレグロ) ト短調 4分の4拍子

このフーガの主題はリズムミックスで非常に印象的だが、バッハは後にオルガン曲のフーガに転用している。3声のみごとなフーガで、主題はまず扇音で出、すぐに主調で応答、さらに8度高く出る。6小節目から間奏が16分音符の単旋律で奏されるが、擬似複音楽の効果を出す。11小節目から展開部となり、3声のみごとな対位法技巧をみせ、多彩な変化の後、裝飾された音型で主和音に落ちついて終る。

第3楽章 シチリアーナ 変ロ長調 8分の12拍子

シチリアの農民舞曲から出たのびやかな舞曲風の楽章で、3声、4声の複雑な声部の取合いがある曲。はじめの上昇動機とつづく下降動機によって全体が構成され、牧歌的な明るさが覗きまれている。

第4楽章 プレスト ト短調 8分の3拍子 16分音符で終始する急速な、そして華麗な

楽章。二部形式で書かれており、第1部は5小節目までに出てくる各動機の変形で構成され、第2部は第1部の動機を転回した音型によって形づくられる。

ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003

充実した大きな構成を見せるすぐれた曲である。バッハ自身この曲をクラヴィーア用に編曲している。

第1楽章 グラーヴェ イ短調 4分の4拍子
重奏音の力強い響き、そしてこまやかな装飾的フレージングの多用は、豊かな響きと劇的な表現を要求し、いかにもバロック音楽のソナタ風の雄大さを感じさせる。23小節の曲だが、堂々と進み、最後は属調の本長調主音に結ばれている。

第2楽章 フーガ イ短調 4分の2拍子

このソナタの中心となる楽章であり、長大で、しかも極度に充実した密度の高いフーガである。主題の性格も力感にあふれているがこれは3小節目で主調によって応答され、2声の自由奔放なフーガとなって発展していく。

第3楽章 アンダンテ ハ長調 4分の3拍子
抒情的でヴァイオリンの歌う楽器としての特徴をみごとに発揮させている楽章だが、表情に富み、伴奏部のしつとりと落ちついた響きの上

に、驚くばかりの美しい旋律が起伏していく。

第4楽章 アレグロ イ短調 4分の4拍子
無窮動的に元氣よく奏しつけられるテンポのはやい曲で、終始、明快である。重音をあまり使わず、もっぱら単音の目ざましい動きによって複音楽的な印象を与えている。二部形式をとる。

ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005

3曲のソナタ中もっとも緊張した荘重な作品である。同じく4楽章より成り立っている。

第1楽章 アダージョ ハ長調 4分の3拍子
附点リズムの動機で弱くはじまり、そのリズムがしだいに力感を増し、調子を高めていく。その間に短いパッセージが入って気分を変え、すぐに附点進行に戻って対位的

な処理をうけながら高潮していく。そして最後は半終止のまま、第2楽章に入るのだが、この不安が迫りつつあるのを待つような緊張した附点動機による楽章は、あきらかに次のフーガに対する序奏と見なしてもよさそうである。

第2楽章 フーガ ハ長調 2分の2拍子

全部で353小節という長大なフーガ。技巧的に、音楽的に表現しにくい大物ともいわれる。主題は「来たれ、聖霊よ、主なる神よ」"Komm heiliger Geist, Herr Gott" というコ

ラールによっており、はっきりとしたリズムをそなえ、属音によって出現、4小節目で主調で応答されるが、そのときの半音階的な対応主題も注目しに値する。これが、この大フーガの中心をなす主題だが、非常に緻密に書かれた圧倒的な力作とも言えよう。

第3楽章 ラルゴ ハ長調 4分の4拍子

短い楽章だが、重音を多用して装飾的にすすめられる優雅な趣がことのほか美しく、深い情緒がただよぶ。緊迫感のみなきらフーガの後をうけて、一瞬、心をなぐさめられるといった性質を持つ。

第4楽章 アレグロ・アツサイ ハ長調 4分の3拍子

16分音符を主体とした、テンポの速い二部形式の華麗な曲。派手ではあるが、バツハの急速な楽章の魅力的な音のうごきは、たくみな複音効果をも発揮させつつ、目にも鮮やかに進行する。クレメールの和声的な感じを出した奏法もみごとく、一気に曲は終結に向かって整然と感情を盛りあげている。

パルティータ 第1番 口短調 BWV1002

4種の古典舞曲とそれに対する回数のドゥブルからなっている。ドゥブルというのは変奏曲の意味である。

第1楽章 アルマンンド 口短調 4分の4拍子
アルマンンドはドイツ風の舞曲で、テンポは速くなく、短い上拍音が頭につく。曲はむしろ悲愴美が感じられるが、輝かしいトリラーも数少ないだけに効果があり、3連音の使用も曲になだらかさを与えている。

ドゥブル 口短調 4分の4拍子

アルマンンドの変奏で、テンポはすこし速く、16分音符のアルペジオや分散和音で擬似複音楽の効果が与えられている。

第2楽章 クーラント 口短調 4分の3拍子
フランスに起こった軽快で速いテンポの舞曲クーラントは8分音符のみのリズムのかかっている箇処が目立ってなだらかに響く。

ドゥブル (プレスト) 口短調 4分の3拍子
16分音符のスタタカート奏法で急速に進むいっそう生き生きとした曲。音階や分散和音の音の粒のそろった技巧の楽しめる曲である。

第3楽章 サラバンド 口短調 4分の3拍子
スペインの古い舞曲の様式をとり、ゆっくと荘重にすすめられていく。

ドゥブル 口短調 8分の9拍子

サラバンドの変奏で、8分音符の3連音により、やや速いテンポでキメのこまかい音の効果が美しい。

第4楽章 ブーレ (テンポ・ディ・ボレア) ロ短調 2分の2拍子

フランスのオーヴェルニュに発した農民舞曲ブーレによるリズムミックスで歯切れのよい躍動的な曲。

ドゥブル ロ短調 4分の4拍子

8分音符によったスタックカートな単音進行だが、例により複音楽的效果を見せる。

バルティエータ 第2番 二短調 BWV1004

最終楽章シャコンヌが、バッハの器楽曲中でも1-2をあらそう不滅の傑作なので、特に演奏されることが多い作品である。4種の舞曲がつづくことは、当時の組曲形式の通例だが、その後に30の変奏を持つ壮麗さを極めたシャコンヌが置かれたために、全曲の構成比は、はじめの4つの楽章とシャコンヌという2部分に感じられるのである。

第1楽章 アルマンド 二短調 4分の4拍子
二部形式をとり、16分音符の連続の中に3連音や重音効果をみせて擬似複音効果を構成する。

第2楽章 クーラント 二短調 4分の3拍子
軽快な3拍子の舞曲だが、8分音符による3連音のみことな処理と、それからまるまる附点音符の動きによって、みごとに生き生きとし

た、美しい旋律の流れが作り上げられている。

第3楽章 サラバンド 二短調 4分の3拍子
ゆっくりにしたテンポで、多声部を豊麗に響かせていく。

第4楽章 ジーグ 二短調 8分の12拍子

イギリスに起こった急速なテンポの古代舞曲。16分音符を主体とした流れるような音型を、軽やかなリズムと素晴らしいテンポで息もつかず弾いていく。

第5楽章 シャコンヌ 二短調 4分の3拍子

単独に演奏されるほか、管弦楽、ピアノ、ギターその他に編曲されて聴くことも多い名作。無類の精神的な深い内容と、豊かな幻想性をたたえた曲で、技巧的にも至難な曲として有名である。シャコンヌは、スペインに起こった3拍子の古い舞曲だったが、短いバスを幾度も反復しながら、その反復の上に変奏をつけていく曲で、バッハのこれは、主題と30の変奏曲で構成されている。はじめ8小節の主題が奏されるが、後半の4小節は前半の反映にすぎない。ほぼアンダンテからグラヴェのゆったりした速度をとる。ついで、だいたい8小節を単位とした30の変奏がおこなわれるわけだが、全体を大きくわけて3部と見ることができ。第1部 主題から第15変奏まで (二短調)、前半で主題を旋律的に変え

ていく。第8変奏以後は16分音符や32分音符を加えて流れるように扱い、アルペジオなどの美しさをさかせる。第2部 第16変奏より第24変奏に至る二長調の部分。全体の中間部をなし、明るい希望にみちた調子で主題が歌われ、和声的にも充実して、オルガンの効果を見せる。第3部 第25変奏より終りまで。再び二短調に戻って、4小節単位の変奏が多い。最後に主題が余韻のように残って全曲を統一した印象のうちに終る。

バルティエータ 第3番 ホ長調 BWV1006

無伴奏ヴァイオリン曲の最後をかざる華麗で明快な作品で第2バルティエータに劣らず、よく演奏されて親しまれる。前奏曲と6つの舞曲からなる。

第1楽章 前奏曲 ホ長調 4分の3拍子

一種の無窮動で、かなり長い楽章だが、変化に富んでいるために単調さを感じさせない。華麗でもあるが、このバルティエータをまず強烈に印象づけるみごとに前奏曲だ。

第2楽章 ルール ホ長調 4分の6拍子

フランスの古い牧歌的な舞曲調で、ノルマンディ地方に起こったというルール舞曲。最初の拍にアクセントを持ち、対位法的な重音を使用して、オルガンの効果をも狙っている。

第3楽章 ロンド風ガヴォット ホ長調 4分の4拍子

これも非常に有名なガヴォットで、単独に演奏されることの多いものである。ガヴォットは、フランスの舞曲で、歯切れのいいリズムを持ち、旋律も力強く印象的。ロンド風とあるが、後のロンドと違い、ロンド舞踏の感じのガヴォットという性質のものだ。

第4楽章 メヌエツト 第1番 ホ長調 4分の3拍子

二部形式という古い形のメヌエツトで、トリオがなく、各部はくりかえされる。テンポをゆっくりにとって、柔らかな感じをこめたメヌエツト。

第5楽章 メヌエツト 第2番 ホ長調 4分の3拍子

おだやかなメヌエツトであり、品のよい愛らしさが特徴。同じく二部形式をとる。

第6楽章 ブーレ ホ長調 2分の2拍子

急速軽快な曲で、いかにも明るく平和な舞曲調がたのしい。

第7楽章 ジーグ ホ長調 8分の6拍子

スタックカートとレガートを巧みに用いた軽快な曲で、全曲を結ぶにふさわしい快活さがある。

